

# 真田坂

- 1面/巻頭言「商店会の変革と成長」
- 2面/特集「松尾町商店会が法人化すると…」
- 3面/暮らし百科  
「素敵に魅せるヘアカラー」
- 4面/銘店探訪「信学会」
- 5面/今月の特選品

コットンサトー 推薦「入園・入学用の手作り袋」  
アバマンショップ上田店 推薦「豊富な物件情報約500件」

街歩きエッセイ⑤「みずす公園」

- 6面/商店主図鑑 ヨロスヤ時計店 一之瀬公 氏  
コラム“街おこしを考える”  
「まちおこしに欠ける重要な分野」

- 7面/真田坂的料理「凍み豆腐の卵とじ」  
売れ残りミュージアム⑤  
「野口みずきモデル サングラス」

読者の質問にお答えします 真田坂の白石さんが一問一答



## 特集●松尾町商店会が法人化すると…

表紙\*市内在住●兼沙織さん  
(若林陶器 オーナー 若林美氏からのご紹介)

### 第6号●巻頭言 商店会の変革と成長

進学・卒業のシーズン、受験生とその親御さんの心境を思うと、サクラ咲く春の到来が待ち遠しい。とりあえず「滑った」「転んだ」「つまずいた」などの言葉は禁句として、進学や就職は幾つかある人生の山登り、自分との戦いである。全身全霊、最善を尽くした結果なら成否は関係ない。その努力は後に人生の肥やしとなり、新しい希望の頂にたどり着けるのである。

ところで、商店会にも消費者の暮らしをよりよく支援するために成長するという人生のような歩みがある。都市の変化や日々の商環境の厳しさを考えると、成長より「人生の曲がり角」というべきだろうか。時代のトレンドや景気変動の影響など、幾多の山を越え生き残らなければ、商店会がある街の基本的な形が崩れ、市民生活に不便が生じ、ましてや暮らしの潤いも提供できない。商店会の元気が市街地の活力に直結する。会員である個店の力が発揮されているうちに、商店会の社会的位置づけと組織などを再検討し、より時代に即した商店会のあり方を見出さなければならぬ。

読者の皆様には、なじみの少ない話となるが、現在、松尾町商店会は法人組織ではなく任意団体である。法人組織としては、中央一番街や原町、松尾町などの各商店会を束ねる中央商店街振興組合があり、街路灯の維持などを担っている。また、上田商業21世紀会という組織もある。中央商店街で開催される様々なイベントは、これらの各団体がかかわっている。お客様から見れば、イベントやセール売出しはそれだけにしか映らない。しかし、複数の組織が参加する複雑な手続きを経て実施されているのだ。景気がよく資金と人手があれば、このような構造でも支障はない。また、その昔のように、商店街イベントはかくあるべき、と認知されていた時代であれば問題はなかったが、価値観の多様化を経て、個の時代、スピードの時代となった現在では、時代錯誤とも思わしき組織構造といえるのではないだろうか。

このような背景の中、松尾町商店会では、現在、組織の法人化として振興組合の発足を準備している。任意団体から法人組織へと移行し、社会的責任のある立場で、商店会の魅力をアップさせ、個店の力を伸ばす環境を作り、皆様に喜ばれる各事業を計画的に実施しようと考えている。また、上田市街地の一部として、街の活性化や環境整備などのプロジェクトを、戦略的に立案・提言・実施できればと思っている。3月6日は新生上田市が誕生する。市民の皆様により愛される松尾町商店会真田坂として、変革し成長できればと頑張っている。

# 特集●松尾町商店会が法人化する…



2006年1月23日、松尾町会館で行われた商店街振興組合準備委員会

## 歴史的には「新参者の商店会」

上田市の中心商店街には、中央一番街、原町、海野町、松尾町などがあり、ご存知かと思うが、海野町と原町は上田の城下町の形成とともに誕生し、また、北国街道の主要な宿場として、ともに繁栄してきた歴史を持つ。我が松尾町の歴史は浅く、明治21年、上田に鉄道が開通してから誕生した、いわば新参者である。原町、海野町からの移転、出店もあったので、関係が全くないとはいえないが、常に、歴史ある大先輩の商店会とともに様々な事業へ協働してきた。

しかしながら、歴史の長短は気風や気質に現れ、松尾町の先進的で柔軟な発想は、革新的で速帯感が強い中から生み出された。比較的若い歴史の商店会が持つ独特なものなのである。この気風は、「松尾町を発展させたい」と大先輩である商店会の胸を借りて、様々な挑戦をしてきたスピリットが育んだのだろう。また、駅周辺の

天神町とともに、上田の表玄関の商店会として、機敏に時代の最先端を取り込むと同時に、上田の顔となる商店会という自負が、この気質を生んだのかもしれない。

## 時代とともに変わる都市と消費者

今日の上田の中心商店街のベースは、明治期の上田駅開業による停車場新道が開通し、松尾町、天神町ができたところによるが、大きな転換期は昭和40年代の道路拡張、同47年の全国に先駆けたアーケードの整備だった。この時期に上田市中央通り商店街振興組合が発足し、中央通りのアーケード整備事業が完成する。

さて、文化伝承の節目の「スパン」を30年というが、我々の暮らした舞台である都市と街の変貌も、この周期を当てはめていい。上田市の中心商店街繁栄のピークは昭和30年代後半から40年代だ。そして、昭和44年に上田丸子電鉄丸子線が廃止、上田東駅が閉鎖され、自動車普及、生活スタイルの変化が始まり、都市がドーナツ化

していく。同時に中心商店街の衰退が進み、昭和58年のほていや百貨店のスーパーへの業態移行と中心部撤退、昭和62年に上田商業21世紀会が発足し、中心商店街の活性化策が模索された。平成に入り塩田に一大ショッピングセンターができ、郊外型消費時代に本格的に突入する。当時、中心部の商業界に衝撃が走ったが、有効な対抗策も打ち立てられず、消費者は車に乗り家族連れで郊外のショッピングセンターに足を運び始め、一層衰退が進んだ。

この10年における上田の中心商店街の大変革は、8年前の長野オリンピック、長野新幹線開通の頃に行った中央通りのアーケード撤去、電線地中化、海野町商店会のアーケード架け替え、天神町と松尾町の要であるJR上田駅周辺の再開発だ。こうして今日の中心商店街の姿となった。歩いてみて感じることは、確か



JR上田駅前平成15年12月、市街地再開発事業により新しく生まれ変わった

にアーケードがなくなり、明るい近代的な商店街となったが、どこにでもある地方都市の駅前や中心商店街となら変わらぬ、上田らしさが希薄になった感じが強いのではないかと。どうだろうか。時代とともに都市の形が変わり、消費者の行動形態が変化するのがよくわかるだろう。ここで面白いデータを紹介しよう。平成9年度に実施された『上田市まちづくりアンケート』である。「緑・まちづくりに対する市民の意識」という調査の「上田市の好きなところ」の設問で、好きなところでは、「上田城跡公園」が最も多く、次いで「自然環境」となった。一方、嫌いなところは、「都市施設の不満」が最も多く、次いで「中央商店街」と続いている。こうなると約40年間にわたって行ってきたハードウェア、



街灯の設置、電気代や修理などの維持管理は振興組合が担っている

専門店のオーナーがご案内する

# 「暮らし百科」



自分にあった色探し…お気軽にご相談ください

## 第5回 素敵に魅せるヘアカラー

心浮き立つ春間近。きらめきを増した日差しとそよ風に誘われて、お洒落心も動きだす。

そこで今回は、かくや姫美容室の金井三奈子さんに、素敵に魅せるヘアカラーのポイントを教えていただく。

昨年カラーコーディネーターの資格も取得した金井さんによると、「色は相手の第一印象を決める大事な要素」というのだが、自分の好きな色が似合う色とは限らない。

「ヘアカラーで似合う色を見つければ、瞳の色や肌の色にあります。中でも大きな影響を与えるのが瞳。一概には言えませんが、真っ黒な瞳には黒髪が似合います。そこにバリエーションが入ってもいいですね。輝く瞳には黄色味が

あなただけを素敵に魅せる色探し、少し意識して始めてみませんか。

た、ゴールド系、グレーやグリーンがかかった瞳には、黄色味がかったオレンジ系がおすすです」

そして、その人に似合う色とは、「瞳が50%、肌が30%、髪が20%」の割合で決まってくるという。

似合う色がわかれば、髪の色だけでなく、化粧の色や服の色もわかってくるもの。

「似合う色は即、若々しく生き生きと見えることにつながってくるんですよ。ここ一番というときは、最も似合う色ではなく、セカンドの色で勝負してみると、今までの自分と違った自分を見せることもできます」

詳しくは「かくや姫美容室」へ 電話/0268-27-1011

すなわちアーケードの有無、電線地中化、駅前再開発という話の次元ではない。市民の心をつかむには、商店街の基本的な位置づけ、組織、消費者へのマーケティングを自らが行うなど、根本的に生まれ変わらなければならない。

### 時代に即し商店会を法人組織へ

現在、松尾町商店会では任意団体から法人組織へと変革するため、「上田市松尾町商店街振興組合」の設立準備を進めている。過去数回にわたりこの紙面で紹介してきたので読者はよくご存知かと思うが、商店会を取り巻く環境や条件などいろいろな側面で転換期を迎えている。商店主の高齢化による空き店舗の増加が予想され、また、すでにテナント化したビルへの出店者の商店会非会員の増加、商店会役員の世代交代など、これまで血縁地縁で保たれてきた商店会組織の連帯感と先進的な発想を維持することが難しくなってきた。フリーペーパー事業や中心商店街活性化事業など、より革新的な事業を戦略的に、そして、確実に展開するためにも、次代を見越して現在の任意団体から法人組織へと移行する必要がある。

新生上田市が3月6日に誕生し、J・T上田工場跡地の開発が検討される中、この機を逃すと大変なことになるのだ。

ところで商店街振興組合とは、昭和37年に制定された「商店街振興組合法」に基づいて設立された商店街の法人組織のことだ。振興組合の大きな特徴は、事業協同組合に比較し、中小小売業者だけでなく、大型店や銀行、一般の住民等も組合員に加えることができ、商店街を中心としたエリア全体を対象に環境の整備改善を図る事業がスムーズに実施できる。現在、上田市には先に紹介した上田市中央通り商店街振興組合をはじめ、海野町商店街振興組合、天神商店街振興組合があり、全国には約2600設立されている。

### お客様第一の振興組合とは

商いの基本は「お客様第一」であることとは言うまでもない。この基本の延長で振興組合の発足を検討している。が、設立準備の手続きと組合員の賦課金の設定に多くの時間を割いてしまい、事業計画の立案と事業に機動的に対応できる新組織の検討が後回しになってしまい、現在、鋭意検討中である。「お客様第一」の志が



振興組合設立のための検討資料

ら見れば本末転倒で、少々、体たらくの話だが、そこは愛嬌で許していただきたい。

現在、研究している新組織は、商店街を経営するという発想で、戦略を描くR&D（様々な事業の研究開発）部門、事業部門からなる基本構造の組織を目指し、R&D部門には、お客様に参加していただくダイレクトマーケティングのシステムなどを導入したい。一例を挙げると、静岡市の呉服町商店会振興組合では「呉服町名店街サポーターズクラブ」があり、呉服町を利用していらっしゃるお客様が振興組合各委員会への参加をはじめ、逸品のプラン、街づくりの意見、提言



2006年は松尾町商店会真田坂のターニングポイントとなる重要な一年だ

など活動を展開しているという。消費者もわが街の商店街をよくしていきたいと、意欲的に参加しているのである。

今回の特集「松尾町商店会が法人化する」とは、消費者の皆さんに見えづら部分で、伝えることが難しいと思っただが、いかがだったろうか。松尾町商店会真田坂の大きな転換期。街を訪れる皆様の声を大切に、そして、お客様とともに中心商店街を育めれば、と願うばかりである。

# 銘店探訪●信学会



信学会は、昭和23年に上田で生まれた。法人としての始まりは、高校受験者数が急増する中で、自己の学力レベルを判断するための「長野県高校入試学力テスト」だった。

次いで浪人生のために学校をと、長野・松本・上田にホームスクールを創設。それが元になって、高校受験・大学受験の予備校へと発展する。さらには教育の原点である幼児教育から大学・社会教育まで、信州教育に信学会ありと知られる総合教育機関となって現在に至っている。

そして、上田予備学校が上田駅から徒歩数分という好立地の真田坂に移転竣工したのは平成元年のことだった。真田坂一の8階建てビルには、大学合格を目指す浪人生が約300人、現役高校生が約350人、小中学生の塾部門に約350人が通っている。

「受験という暗いイメージがあるかもしれませんが、それはみじんもないですね。予備校は勉強そのものと情報と生活。プラス、モチベーション(精神的刺激)です。皆で競い合い、励まし合うことで学校と

して成り立っていく。人とのかわり合いがあるからこそ、難しい入試というものを乗り越えていけるんです」と庶務課長の柳沢さん。

「真田坂とのかかわりも、やはり大きいと思います。南は小海、北は篠ノ井や松代の子が上田駅に降りてこの坂を上がってくるわけです。1年間通えば、いろんな意味で町の方にお世話になっていきます。皆さんに非常にあたたかいい目で見たいので、自分たちの町というイメージを持っていてと思いますよ」



受験シーズン真っ只中の授業風景



最上階の学生ラウンジはヨーロッパの駅舎風ドーム空間



学内で生徒たちを見守る「合格祈願達磨」

かわりといえは、信学会には「終身割引」制度がある。「一度縁のあった方、例えばうちの幼稚園を卒業した子が小学生になって夏期講習を受けようとする、申込金は免除になります。それが縁。やはり、うちの幼稚園を巣立った子たちにはいい勉強をしてほしい。いい結果を出して新時代を切り拓く、人財に育ってほしい。そこで手伝えるところはいくらずも手伝いますということですよ」

教育は人。あたたかな心の通うつながりの上にある。

# 真田坂●今月の特選品



東北信唯一のボタン専門店だが、洋裁、手芸の材料や用具も充実し、見つからないものはないのでは…。こちらもご好意により「真田坂を見た」と一言添えると、お買い物が5%OFF!



↑アバマンショップ上田店のご好意により「真田坂を見た」と一言添えると、ご来店先着10名様に上戸彩のクリアファイルをプレゼント

## 豊富な物件情報約500件

この春からのお住まい探しはお任せください。

JR上田駅を背に、真田坂が始まる「上田の入口」に位置するアバマンショップには、新生上田市から東御市、坂城町にかけての物件情報が常時約500件。多様な物件の中からご希望にかなうお住まいをお選びし、店長以下4人体制で素早く対応いたします。

「真田坂を見た」と一言添えていただくと、先着10名様にCMでお馴染み上戸彩のクリアファイルを差し上げます。

お問い合わせ／アバマンショップ上田店  
上田市中央1-4-4  
電話0268-229-8771

## 入園・入学用の手作り袋

喜びの入園・入学を間近に控え、新生活に必要な手作り袋を各種取りそろえました。手作りの完成品に加え、各校のマニアルを元にした注文製作もうけたまわります。

可愛いキャラクター模様のキルティング素材や、ソフトデニムの中から好みの生地を選び、ワッペンで個性あふれる袋にして、夢いっぱい学校生活をスタートしませんか。

「真田坂を見た」と一言添えていただくと、5%引きいたします。

お問い合わせ／コットンサトー  
上田市中央2-6-1  
電話0268-222-2273

## 街歩きエッセイ⑤「みすず公園」

松尾町商店街の中程、美容室「いちばん星」「BGMIX」の間の小路に入った通り裏に小さな公園がある。表通りからは見えず、その存在を知る人は少ないだろう。北と西側は人家、東側は上田病院、南側は上田病院の駐車場に囲まれている坪庭のような公園である。子供用の小さな滑り台、ブランコ、鉄棒、ベンチがあり、草木や土が薫る。ビルの隙間に無理やり作られた公園とは趣が異なる。

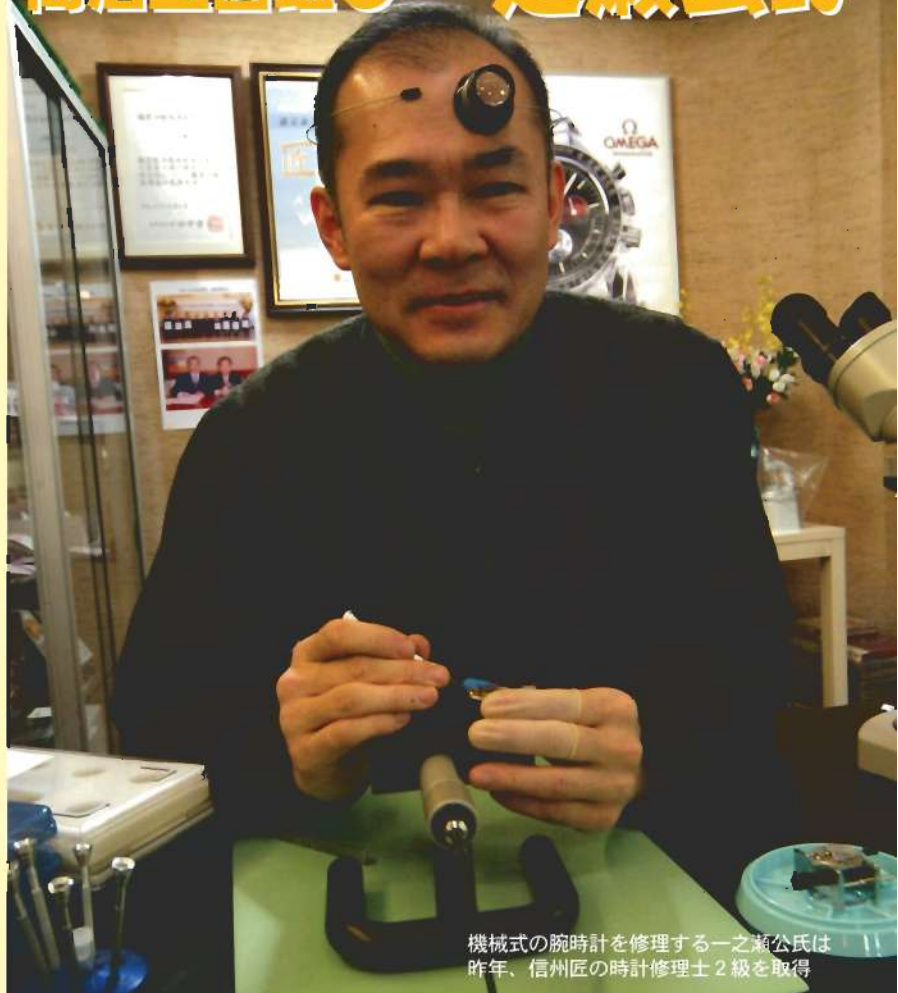
昭和30年代、今の商店主達がほんの子供だった頃、この公園は町の子供達でいつもいっぱいだった。毎日、学校から帰ると三角ベース野球やビー玉、メンコ、釘刺し、缶蹴り…。年上の子も、年下の子も皆一緒に遊んでいた。

そんな親近感が大人になっても続いている。今は子供達も少なくなり、松尾町に住む子供はほんの数人という状態である。少子化、高齢化、商圏のドーナツ化、等々の象徴とも映る、静かな公園となっている。という訳で訪れる人も少ないが、だからこそお勤めのスポット。松尾町に「休める場所が欲しい」とのご意見もあったがここにあった。春から秋にかけて近隣の方々の丹精込めた花々が咲く。ブラリと立ち寄って、ホッと休んでみて頂きたい。歩き続ける毎日の途中で足を止め、ポッカーリとあいた空を眺める場所が公園。街は建物や道路で囲んだ機能の集合だけではなく、人々の暮らしが息づいていて欲しいと思う。ならば、暮らしとは何なのだろう。そのためには何を。そんなことを考えさせる公園である。(文／増田芳希)



(写真／平林敬夫)

# ただし 商店主図鑑 ● 一之瀬公氏



機械式の腕時計を修理する一之瀬公氏は昨年、信州匠の時計修理士2級を取得

時計と宝飾、眼鏡を扱うヨロズヤの社長一之瀬さんは、3年連続で時計に関する資格を取得した。まず平成15年に職業訓練指導員、16年には「信州匠の時計修理士」3級、そして17年には同2級。信州匠の時計修理士は、県時計宝飾眼鏡商業協同組合が16年に始めた資格制度で、機械式時計の修理技能の検定だ。「現在主流のクォーツ式は、国家検定がありますが、機械式は検定がなくなつて久しくなります。ところがこの数年、機械式の人氣が復活してきている一方、技術者の高齢化が進んでいるので、技術を伝え、技能を高めておかないと、近所の時計屋さんで直したいといつても、持

ち込む場所がなくなつてしまします。幸い、長野県の諏訪地方は、東洋のスイス、と言われた精密機械工業の歴史があり、研修の場に恵まれているんです」。昭和26年創業というヨロズヤの二代目一之瀬さんは、子供時代、不要になった目覚まし時計を分解するのが遊びだったほどの機械好きで、大学も機械科卒。その一之瀬さんをして「ヤダくらい目茶苦茶難しい」と言わしめた2級の合格は、日々の商売に直結し、マニアな客との構造的な話はもちろん、「一般のお客様にも修理の内容をわかりやすくお話できるようになりました」。メーカーに送らず、手元で修理をすませることができ、昔の時計で既に部品が

生産されていないものなど、組合の仲間うちの情報交換で探すこともある。となると、次は目指せ！1級と、周囲の期待は高まるが、「1級の合格者は超ベテランの人たちばかりですからね。条件が許せば挑戦したいと思つていますが、毎日の業務をやりながらなので、なかなか勉強の時間がとれなくて」。日々の仕事を着実に、皆さんに喜んでいただけるように、小さなことからコツコツと、です(笑)」。正確に時を刻む時計のように、地道に技能を高める先に、自ずと道が開けていく。



修理中の腕時計と専門機器

技術の店・ヨロズヤでは、独自のネットワークを生かし、宝飾品のリフォームにも力を入れている



ずらりと並ぶ免許は高い技術の証

ヨロズヤ 上田市中央1-3-6 電話0268-22-1814

## コラム「街おこしを考える」⑤

**まちおこしに欠ける重要な分野**  
 わが商店会のTMO担当が「TMO運営委員会の会合に行ったら、商連の代表の方が休みで、商店主は私一人だった。委員は各方面の識者の方々が、商店主をどう教育するか」と感じる内容の会議だった。何かおかしくないか？」とぼやいていた。確かに商店街は個店の集合体だが、卓上の理論で個店の魅力度と集客力、経営などの体力を上げると、商店主という現場のプロを再教育するのは如何なものか。少なくとも、個店の現場で力量をリサーチした上で、ランク別に適切なコンサルティングをするのが当然ではないか。これまで何回も書いたが、中心商店街とまちおこしは、経営論、都市論、コミュニケーション論など広範囲で複合的な構造問題だ。が、現状を見ると識者には企業経営や都市論の方が多く、コンサルタントもその分野がほとんどだ。特集で紹介した商店街振興組合は、商店会の法人組織で、所管は経済産業省、中小企業庁。商工業の経営などに長けたバックアップが特徴だ。経営は基盤だ。しかし、現場で物が売れなければ経営にもならない。商品やサービスを如何に見直し、お客様へ提案提供できるか、コーディネートが大切となる。価値の再発見や再構築など、新しい価値を発見できる目を育てることから始まり、その集合体が商店街のブランド力を育成する。各現場におけるマーケティングやマーケティングダイニングの下、商品開発、広告など、広義におけるコミュニケーション力を見出す必要がある。現状では、この分野は前例主義の金太郎飴的指導が多く、最後は商店主のセンスと力量次第、と片付けられる。地方の商業界では長年、あまり関心がなかった分野だ。本来なら地元の広告代理店がコンサルタントを担うが、あまり行われなかったのだ。



# 新器春色

●2店、ご利用の際は、本紙をご呈示下さい。「特典」を差し上げます!

新しさ、みなぎる春。\_\_\_\_ 店内には、たくさんの新しいお雛様が勢揃い。  
 新しいうつわ達も、新しい 春の喜び を映しています。  
 真田坂の春、お散歩がてら、どうぞお気軽にお立ち寄り下さいますように。  
 「すて器、だいす器。」 若林陶器スタッフ一同 2006年 春

＊ 春は\_\_\_\_すべての始まり。  
 いくつもの出発、そして出会い。

店内にたくさんの陶製おひなさまが微笑んでいます。お子様のお健やかなご成長を願う初節句、お返しギフト / 春の新柄はいかがでしょう。その日が待ち遠しく、ランドセルを背負ってみせる小さな君がとても眩しいです。卒業式「旅立ちの歌」・・・あなたの歌声に、決まって目頭が熱くなるのです。頑張った受験勉強・・・慶びの報が待ち遠しい、さくら咲く頃。この春いよいよ社会人。期待に胸膨らませ、あなたが輝いていきます。ご卒業・入学・進学・就職おめでとう! 内祝好適品 / 若林陶器・本店の春柄の器が季節を證します。支店・「ギフトギャラリーわかば」では、器をはじめ総合ギフト取扱、各種カタログギフトも御好評。ご結婚の御馳、御引出物 / 春の器たちが佳き日の思い出を幾久しく物語るでしょう。こんにちは赤ちゃん! ご出産のお返しギフト / 赤ちゃん専用カタログでもご提案いたします。ご新築 / などなど・・・春からうれしい行事がいっぱい。人の生き方を教えるように、春を飾った梅、桜、いくつもの草木たちが、競って一言に花開く\_\_\_\_春って、本当にエネルギーで嬉しい頼もしい微笑ましい季節ですね。\_\_\_\_さあ、始めます。おめでとうの春に。それは、あなたが主役の、贈り物語。」

＊ さあ、始めます。\_\_\_\_おめでとうの春。

## 若林陶器 本店 2~3月の催し予定

- ひな祭り / 陶製のお雛様が、多数勢揃いしました。(予定: 全250点以上)
- 桜花爛漫うつわ展 / 春を映した器・外・ストリー・小物など店内繰り入荷中。
- さくら細工展 / 花も木もあるサクラ展、桜皮細工と木工の数々をご覧ください。
- 春のお茶まつり / 茶十徳(若林陶器1階) 第1回 2月15日~27日まで
- 急須ご奉仕市 / お値打ち価格は、店内掲示にて。
- 新規・至高の焼酎カップ / 早くも大好評、モダンイズム香る焼酎の器物語。

## ギフトギャラリーわかば Wakaba 2~4月の催し予定

- ひな祭り・初節句内祝好適品お買得セール / お買得詳細は店内掲示にて。
- 2006春おめでとうセール / お買得詳細は店内掲示にて。2月15日~4月10日まで

## 編集後記

今回の特集が決まった時点では意識しなかったが、取材を進めるうちに頭を抱える状態となった。商店会から振興組合への移行は、街を訪れるお客様とあまり関係のないこと。わが上田の中心商店街の歩みと商店会の法人化を、まちおこしの観点から辛口に書こうとしたが、いまひとつ甘口になってしまった。ところでベストセラーの「生協の白石さん」をバロウの新コーナー「読者の質問にお答えします」は如何だったろう。読者の皆様からの声援とご指摘に感謝いたします。(安藤)

巷で「真田坂」が評判だ。何がといえば、表紙にモデルとして登場されている方が品よく美しいというのだ。表紙の撮影日には、ギャラリーもできるほどの盛り上がりという。「表紙に登場するのがステータス」となるような、ハイレベルなフリーペーパーになる日も近いのでは...。と盛びつつも、4号でモデルを務めながらも、アゴから上をカットされてしまった当方は、微妙に複雑な心境である。(惣田)

発行日●2006年2月15日  
 発行●松尾町商店会(会長 佐藤高和)  
 第5号編集委員●副会計 滝沢善郎 企画部 一之瀬公 市商連担当 志摩充彦 町山和幸  
 タウンカメラマン 松尾町商店会副会長 平林敏夫

取材●安藤州平・惣田鴨子  
 企画編集●真田創造工房・安藤州平  
 印刷●中外印刷株式会社  
 ご意見、ご感想、ご要望はFAXでお願いします。FAX●0268-72-0222

WAKABAYASHI TOHKI  
**若林陶器**  
  
 ギフトギャラリー わかば  
**Wakaba**

- 若林陶器 上田市中央1-2-18 ☎0268(22)0800
- 茶十徳上時売店 上田市中央1-2-18 ☎0268(22)0800
- わかば 上田市天神2-4-56 ☎0268(22)3910

